



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

検査部部長としての抱負

検査部 部長 志村 浩己



平成25年4月1日付けで附属病院検査部部長を拝命致しましたのでご挨拶申し上げます。私は、山梨県生まれで山梨医科大学（現在山梨大学医学部）に1期生として入学し、これまでは山梨県を中心に内分泌代謝領域（甲状腺・内分泌疾患および糖尿病）の診療と研究を行って参りました。これまで福島県には縁が無かったのですが、東日本大震災発生後、県民健康管理調査の甲状腺調査に検査者として参加するようになり、福島の先生方や技師などの医療関係者と親しくさせて頂くことが増えたことから、福島県立医科大学との縁につながったと感じております。

現在の医療は、これまで、長期間の入院診療や複数回の外来受診がどうしても必要であったものが、診断の迅速化、入院期間の短縮化、日帰り治療の拡大が急速に進んで来て

おります。それには、臨床検査の進歩、特に迅速化と効率化が大きく寄与しています。福島県立医科大学附属病院の検査部は、「一般検査・血液検査室」「生化学・免疫血清検査室」「微生物検査室」「生理機能検査室」に構成されており、これまでも非常に熱心に業務に取り組んでおります。今後は他の診療科との連携のもと、これまで以上に臨床検査の迅速化、効率化を図り、診断・治療の進歩に貢献していきたいと考えています。

また私は、放射線医学健康管理センター甲状腺検査部門の副部門長として活動させて頂くことになりました。本部門はご存じの通り福島第一原子力発電所事故後に福島県の小児に対して行われている甲状腺検査を担当している部門です。本職として、今後長きに渡り行われる甲状腺検査の円滑な運営を図ると共に、検査部のスタッフとともに実際の検診およびその後の診療にも従事する所存です。皆様にはお世話になることが多くなると思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

当院は日本医療機能評価機構の認定病院です

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための活動（機能）が適切に実施されているかを「病院組織の運営と地域における役割」「患者の権利と医療の質及び安全の確保」「療養環境とサービス」「医療提供の組織と運営」「医療の質と安全のためのプロセス」「病院運営管理の合理性」などの視点から、公益財団法人日本医療機能評価機構が第

三者の立場から評価するもので、当院は2006年12月に初めて認定を受けました。

認定期間の満了に伴い、認定更新のための審査を受けた結果、評価項目全てにおいて一定水準以上であるとの評価をいただき、2013年3月1日に認定が更新されました。



☆「情報提供ページ」のアドレス

http://www.report.jcqhc.or.jp/jcqhc/list_nintei.php?page_id=hp030N&hp_id=2382

第22号のなかみ

- 2ページ……○目標は、『患者さんのQOL(生活の質)の向上』
○「看護の日イベント」開催
○PET検査食導入のお知らせ
- 3ページ……○医大病院でPET検査ができるようになりました
○あなたの健康、見守ります。
- 4ページ……○リレー通信
○美容室と理容室がリニューアルオープン
○療養環境整備工事について

病衣・付添寝具

清潔と快適をクリエイトする。

DOJINSHA

〔ご利用・お問合わせ先〕

株式会社 同仁社
医大リネン室

電話 024-547-1111
内線 3081

マチのほっとステーション

LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店（エレベーターホール隣）
ローソン福島県立医科大学店（7号館内）

リハビリテーションセンターでは、医師3名（整形外科2名、循環器内科1名）、理学療法士9名、作業療法士4名（うち身障部門が3名、精神部門が1名）、言語聴覚士2名、看護師1名、助手1名で構成されており、年間51,000件を超えるリハビリテーションを行っています。当院の特徴は、リハビリテーションセンターが病院の中央診療部門に属し、各診療科から依頼を受け、主に入院患者さんを対象としてリハビリを行っている点です。

対象疾患（対象とする科）はさまざまであり、理学療法では全科から依頼を受け、歩行練習などの機能回復訓練、廃用予防のための訓練、心臓リハビリテーション、新生児や乳幼児の発達支援などを行っています。作業療法の身障部門では、脳卒中後の機能回復訓練や日常生活動作の訓練、整形外科患者さんなどの腕や手指の訓練を行っています。精神部門では、心身医療科入院中の患者さんに対して、生活のリズムを整え気分を安定させ、脳機能の働きをよくするための手工芸活動やレクリエーションなどの活動を行っています。言語療法では、脳卒中後の失語症や記憶障害などに対する検査や訓練、聴覚障害者に対する聴能訓練などを行っています。

私たちリハビリテーションセンターの目標は、『患者さんのQOL（生活の質）の向上』です。患者さんとリハビリの目標を共有し、発症以前の生活に少しでも近づけるよう努力しています。また、患者さん本人だけでなく、患者さんのご家族にも介助の仕方を指導しています。より良いリハビリテーションを行えるようにするため、研究活動も行っていきます。Evidence-based rehabilitation（根拠に基づいたリハビリテーション）を提供できるよう日々精進していきます。



「看護の日イベント」開催

看護部 尾形 瑞子

今年度もナイチンゲールの誕生日に合わせ、当院でも「看護の日イベント」を5月16日・17日の両日に開催しました。イベントは体重・血圧・体脂肪測定などをはじめ、それぞれの専門分野の看護師・栄養士・薬剤師による相談コーナーを設けました。また、感染管理認定看護師による手洗いの仕方の指導があり、大勢の患者さん、ご家族の方に参加して頂きました。



この2日間で延べ400名ほどの参加を頂くことができました。

また、看護師へのメッセージには、看護師への感謝の言葉や応援のメッセージがたくさん寄せられ、大変励みになりました。これからも、患者さんが安心して治療が受けられるように温かみのある看護を提供していききたいと思います。



PET検査食導入のお知らせ

医事課栄養管理係 栄養技師 飛松 聡

当院では平成25年4月よりPET検査が導入されました。PET検査とは、がん細胞のブドウ糖（炭水化物）の取り込みを利用した、がんを早期発見するための検査です。また、サルコイドのような炎症性疾患でも、感度が高いことが知られています。心サルコイドの検査としてPET検査は保険適応となっておりますが、心臓は生理的にブドウ糖の取り込みが多いため、検査精度を上げるために検査時は血糖を下げる必要があります。そこで、栄養管理部では、循環器内科の國井先生、八巻先生の依頼を受けて検査の正確性を上げるため、海外の文献を参考にして炭水化物が少ない（5g未満）食事を作りました。検査食は検査の前日に1食提供することになっております。

食事内容

- グリルチキン
- 野菜の付け合せ
- 豆腐（醤油付き）
- ゆで卵（塩付き）

栄養価

エネルギー：278kcal
たんぱく質：21.1g
脂 質：20.9g
炭水化物：4.1g



福島県立医科大学にPET/CTおよびPET/MRI装置が導入され、保険診療によるPET検査が開始されました。

2台の装置は東日本大震災後の福島県復興計画として「ふくしま国際医療科学センター先端臨床研究センター」の整備計画にて購入され、附属病院とともに活用するために導入されました。核医学治療病棟（東病棟）を改造して設けられたPET検査室には最新鋭のPET/MRI装置並びにPET/CT装置が昨年11月に搬入され、本年1月から稼働を開始しました。装置のテスト、ボランティアでの試験的な測定を経て、PET/CT検査については2月から、PET/MRI検査については4月から¹⁸F¹⁸FDGを用いた保険診療として、附属病院外来患者を対象に検査がスタートしました。PET/CT装置、PET/MRI装置ともにドイツに本社があるシーメンス社が製造開発した最高性能の装置です。

PET/MRI装置は、日本では初めての導入で、MRI検査とPET検査を同時に行い、MRI画像によりPET画像の吸収補正を行うことにより、これまでのPET/CT装置での被ばくが半分から1/3程度に低減することが利点のひとつと考えら

れています。しかし、導入当時は保険診療が認められておらず、2月からの稼働では自由診療での検査開始となりました。4月に正式に保険診療が認められましたが、保険診療点数はPET/CTと同額（8,625点）で、装置の値段からすると、採算の合わない点数となっています。また、保険診療として認められたのは、腫瘍診断への利用のみです。「悪性腫瘍（脳、頭頸部、縦隔、胸膜、乳腺、直腸、泌尿器、卵巣、子宮、骨軟部組織、造血器、悪性黒色腫）の病期診断及び転移・再発の診断を目的とし、他の検査、画像診断により病期診断及び転移・再発の診断が確定できない患者に使用した場合に限り算定する」というものでした。適用範囲が限定されること、診療報酬が装置のコストを大幅に下回っていることなど、問題点は多いのですが、保険診療が認められたという点で大きな意義があると考えています。

検査の申し込み、結果の報告など、電子カルテで簡便に行えるように準備中です。

あなたの健康、見守ります。

福島県では原子力災害による放射線の影響を踏まえ、県民のみなさんの健康を長期にわたり見守っていきます。その基本となるのが「県民健康管理調査」です。

「県民健康管理調査」の内容は、次の5項目です。

- 1 基本調査（問診票による被ばく線量の把握）
- 2 甲状腺検査
- 3 健康診査
- 4 こころの健康度・生活習慣に関する調査
- 5 妊産婦に関する調査

これらの調査は、「福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター」が中心になって、県内、県外の医療・保健・福祉関係者の協力を得て実施しています。前回は「甲状腺検査」についてお知らせいたしましたが、今回は、「甲状腺検査についてのQ&A」（その3）です。

Q どうして超音波検査だけなのでしょう？ 血液検査はしなくて大丈夫ですか？

A 低線量被ばくによる甲状腺への影響は、血液検査では分かりません。そのため、いわゆる小さな病変（しこり等）を見つけるためには、精度が高く痛みも伴わない超音波検査が適しています。

Q 甲状腺検査については「20歳までは2年ごと、それ以降は5年ごと」とされています。放射性ヨウ素による内部被ばくの実態が明らかでないことから、「甲状腺検査についてはできるだけ早急に、かつ最低でも1年に1度は実施すべき」ではないのでしょうか？

A 甲状腺検査の頻度については、甲状腺がんの臨床特徴を理解している甲状腺学会その他専門医門医からなる外部の甲状腺専門委員会の検証を受けて決定しています。

甲状腺がんの発がんリスクは、放射線外部被ばくによる場合は100mSv以上で、内部被ばくの場合

は臓器等価線量^(※)100mSv以上で、増加が観察されています。また、潜伏期（被ばくした時点から甲状腺がんが発症するまでの期間）は、前者が10～15年以上、後者が4～5年以上です。

※臓器等価線量：臓器そのものが受ける実質的な被ばく線量

Q すでに実施した調査では、嚢胞・結節が認められた子どもに対して、ほとんどの先生は「良性所見」とのこと。また、B判定とされた子どもについて、福島原発事故との関係はあるのでしょうか？

A 現在行われている先行調査で認められた嚢胞・結節などの良性所見は、放射線被ばくによるものではありません。B判定自体もC判定と異なり、強く「がん」を疑うものではありません。推計される被ばく線量と甲状腺がんの潜伏期を考え合わせると、仮に現時点から数年の間に甲状腺がんが発見されても、それはスクリーニング効果とも呼ばれ、放射線によるものではなく、自然発症の頻度と考えられます。

Q 成人の検査は必要ありませんか？

A チェルノブイリ原発事故後に明らかになった健康被害として、放射性ヨウ素の内部被ばくによる当時小児（15歳以下）であった人に4、5年後から甲状腺がん発症の増加を認めていることが問題とされたため、万一のことを考えて年齢幅を大きくとり、事故当時18歳以下の全県民を対象に、この検査を行い、さらに彼らが成人後も長期的に見守っていくこととしました。

福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

電話：024-549-5130（土日祝日を除く9:00～17:00）

メール：kenkan@fmu.ac.jp

リレー通信

ボランティアに参加して

渡部紀美子



ラジオから聞こえてきたボランティア募集に背中を押され、仲間にしていただきました。先輩方の動きを見ながら学びました。

患者さんは一人ひとり違いますので、対応も様々です。声掛けしても、かえって患者さんには迷惑で話したくないときもあると思います。この

ようなところが本当に難しいと感じました。

また、1日に来院する患者さんの多いことには驚きました。自分もいつかは逆の立場になるかもしれない、そのようなことを考えると力が入ります。

患者さんや仲間の皆さんに迷惑を掛けているかもしれませんが、これからもご指導を頂きながら、仲良くやっていきたいと思っておりますので、よろしくお祈りいたします。

また、自分の健康に感謝し、患者さんの一日も早い回復をお祈りしながら、思いやりの心を添えて、続けていきたいと思っております。

美容室と理容室がリニューアルオープン

4月25日より美容室と理容室がリニューアルオープン致しました。

ウィッグ相談室の役割も兼ねていますので、シャンプー、カット、カラーリングという一般美容サービスだけでなく、脱毛時のウィッグの使用についてもアドバイスを行い、頭皮全般のご相談（べたつきやヘアケア方法など）を承っております。



私たちはすべての方に安心・リラックスしていただけるよう、車イスのままご来店いただけるバリアフリー設計はもちろんのこと、病室までお迎えにうかがうための「移動式理美容椅子」などを導入しています。

病院の基本方針に沿った店舗運営を心がけ、病院内アメニティ機能としての役割を果たし、関わるすべての方に「安心・安全」を提供し、「信用・信頼」のおける店舗運営を行います。

当店へご来店することで、不安な気持ちを少しでも癒すことができるようスタッフ全員で頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

営業時間 AM9:00~PM6:00

定休日 土・日曜日（祝日営業）、予約優先制
病室への出張カットも承ります。
車イスのままご来店いただけます。
他社商品の調整も承ります。

直通番号 024-547-2325（内線：4187）

療養環境整備工事について

総務課施設係では、大学並びに附属病院の改修や維持管理業務を担当しています。平成24年度には療養環境整備事業の一環として、病棟内のトイレ改修を行いました。

今回のトイレ改修の目的は、一つに車椅子使用者が利用出来るトイレの増設で、かつ、このトイレを多目的トイレとしてオストメイト（腹部などに排泄のための開口部を造設した人）対応のトイレとするものです。二つ目は共用トイレ内にある和式便器を腰掛け式に交換することでした。これらの整備を進める事で、入院されている患者さん方の療養環境の向上を図っています。

なお、患者さんが居ながらの改修工事では様々な制約が発生するため、全体の工事期間が長期間になると共に、多目的トイレの増設場所を東・西各病棟のそれぞれ中央付近にある器材庫を改造して設置することを基本とした結果、これに伴い縮小した器材庫スペースを別な場所に確保する必要があり、このため各階病棟の中央にあるデイルームと呼ばれるオープンスペースを縮小し、両側の面談室等をバルコニー側に増築・改造する事で器材庫スペースを確保しました。

これらの工事に関しては入院患者さん方だけでなく病院スタッフ関係者等にも多大なご迷惑をお掛けしたところですが、皆様方のご協力に対し感謝を申し上げます。



すべてを地域のために
東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331（受付時間：平日午前9時から午後5時）

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時~20時
土日祝 9時~19時

アメリカ シアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

